

離れていても繋がれる…

能登地域 授産事業製品カタログ

震災から2年、豪雨災害から1年3ヶ月。被災地では公費解体が進み空き地が増え、町の風景は変わりつつあります。事業所が抱える課題も地域によって異なりますが、就労系の事業所では、被災などの影響で仕事が減少しています。

この様な課題に対し、ゆめ風では遠方からでもできる支援として、能登の福祉事業所が製造する授産製品をまとめた【物販カタログ】を作成し、現在15事業所の商品が掲載されています。今後、新潟県の事業所の商品も掲載予定です。

このカタログに関する詳細をお知りになりたい方は、ゆめ風基金（担当：植野）までお問合せください。

●掲載商品の一部をご紹介します●

* すず椿（珠洲市）

●缶バッヂ 200円



オリジナルイラストの缶バッヂです！
(柄は選べません)

●キリコ(白・黒) 1200円



全て手作り。細部まで丁寧に仕上げています。(幅19.5×奥7×奥20.5cm)

* 作業風景 *



* えがお穴水（穴水町）

●能登の海の シーグラススタッセル 750円



能登の里山・里海のイメージカラーの布地と、能登の海岸で採取したシーグラスを使って作った「タッセルキーホルダー」です。

シーグラスとは、海岸や湖畔で見つかる波に揉まれて角が取れたガラス片のことで、長い年月かけて波と砂、岩によって削られて作られます。

元々は人間が捨てたガラス瓶などのゴミが、自然の力で形を変え、美しい姿になり「海の宝石」と呼ばれます。

同じ形をしたものは一つとしてなく、それぞれが異なる表情をもっており、その形に應じた愛称が付きますよ！

能登の海で採取したシーグラスを使用しています。

「NOTO」のロゴが入っています。

シーグラスのロゴが入っています。

●おおとり（能登町）

* 期間限定商品 *

* さつまいもクッキー 200円
* ショーボールクッキー（冬季限定）200円
・紅茶・ココア・抹茶



間違えのないように、確認して商品ラベルを準備します。

スノーボールは、一つ一つ丁寧に包めます。



* ゆめ風基金のSNSやウェブサイト *



Website



Facebook



Instagram

* つながり（羽咋市）

●卓上カレンダー いつからでも使える31日卓上カレンダー。



1冊 1,500円
幅128mm×高さ158mm(台紙含む)

●クリアファイル



表裏
1枚 200円

●オリジナルノート(A5サイズ) 1冊 500円



(ノートは無地or方眼が選べます)

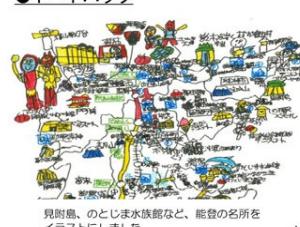
●一筆箋 (左から: なまこ、クワガタ、かえる、だこ)



1冊 500円

* 夢かぼちゃ（輪島市）

●トートバッグ



見附島、のとじま水族館など、能登の名所をイラストにしました。

小: 1,500円

(生地縫め)



大: 2,000円

(生地縫め)

●缶バッヂ 1個 300円

奥能登の方言を缶バッヂにしました！

- ・まいわ～：おいしい
- ・だら：ハカ
- ・いいがね：べつにいい
- ・きのどくな～：すいません
- ・えちゅけ：かわいい
- ・はあーちきねえ：はあへつらい
- ・まんで：とても
- ・おいね：そうだな
- ・どいね：どうなの？
- ・だかん：ためだ



小: 35

横36

マチ10

持手24cm

●Tシャツ①：前面プリント 2,500円

色：アイボリー・ブラック・オートミール



●Tシャツ②：背面プリント 2,500円

色：ブラック・ホワイト



特定非営利活動法人 ゆめ風基金（認定NPO）

〒533-0033

大阪市東淀川区東中島1-13-43-106

TEL : 06-6324-7702

FAX : 06-6321-5662

メール : info@yumekazek.com



能登半島地震 1年10ヵ月

能登半島地震は1日、発生から1年10カ月となった。地震による死者は災害関連死を含め、石川、富山、新潟3県で計679人。ほかに石川県の5人が近く関連死として正式認定される方向で、死者の合計は684人になる見通し。

大きな被害が目立った石川県内では、11万6452棟の住宅に被害があった。被災した住宅などの公費解体は、県が解体完了の目標としていた10月末以降も続く。

昨年9月の奥能登豪雨の影響も色濃く残り、県内外の仮設住宅などで暮らす人は豪雨の被災者も含め、10月20日時点で9624世帯計1万9763人に上る。(田嶋豊)



豆をパック詰めして納豆を製造する「みのり園」の利用者ら=10月22日、石川県七尾市で(奥田哲平撮影)

障害者就労続く苦境

企業被災、施設に打撃



仮設住宅のポストにチラシを入れる
「すず椿」の利用者=10月20日、石川県珠洲市で（高橋信撮影）

元スーパーや個人客に販売している。県内の就労施設では唯一、自主商品として納豆を製造するというみのり園。地震直後は断水のため製造投資が必需」と悩ましい。

(69)は「大手メーカーから納豆の新製品が続出するの

で、急な販路拡大は難しく、たれを付けるにも設備

投資が必要」と悩ましい。

昨年の能登島地震以来、石川県能登地方の障害者の仕事が減っている。働く場である就労施設で製造する商品の販売先や内職を請け負っていた地元企業が被災した影響だ。そんな中で、新たな仕事創出に取り組み、障害者の社会参加ややりがいづくりに知恵を絞る施設もある。

(奥田哲平 高橋信)

七尾市国分町の「みのり園」では10月下旬、利用者が大きく落ち込んだまま

続く苦境

草刈り、投函… 新たな仕事開拓

利用者が作るギリコのミニチュア模型などの小物類は、観光客が減りほとんど売れなくなつた。県外の福祉施設などがイベントで代わりに販売してくれるが、理事長の宮富修さん(80)は「正直、支援は今年までだと思つ」とつぶやく。

「作業をして工賃がもらえない」というのは利用者の生きがいになる。復興推進隊もいつまでもある仕事じゃないと思うので、草刈り事業を周知し顧客を開拓していきたい」と意気込む。

「埼玉県川越市飯田町の「立す
櫓」は、地元企業を中心
に受注している内職が収入の
柱だった。かつては年間約
700万円ほどの収入があ
つたが、新型コロナウイル
ス禍で減少していたところ
に地震が起きた。受注元の
企業が閉業したり事業規模
を縮小したりしたことで、
仕事が減った。

用者によつては収入が増え
た人もいるというが「この
仕事がなかつたら、今年は
従来の半分くらいの収入に

ほかにアルミニウムなどの資源回収事業や薬用茶葉づくり、地元企業からの内職の受託で収益を上げる。地震前の平均賃金（工賃）の月額2万円余りを何とか維持しているという。田畠さんは「利用者の皆さんは、仕事にプライドを持つている。給料があり、友だちと会えて楽しみに来ている。居場所を守りたい」と語す。

地震前に比べて利用者が3割近く減ったものの、現在も44人の知的・精神障害者らが登録。手をこまねいでいるわけにはいかない」と、新たな仕事創出に取り組む。その一つが、公費解体後の空き地で伸びた雑草を格安で刈る事業。ただ昨年10月からの1年間で手がけたのは22件で、想定より需要は少なかった。

『仕事にプライドを持っている…』

「おいらが掃除しないとすぐに汚くなるんだよ。まったくこまっちゃうよ」この言葉は、輪島の事業所を訪問した時に清掃作業に対してメンバーさんが話してくださった言葉です。このカタログが、支援の一助となれば幸いです。